

読 記念 Yomiuri Nippon Symphony 55th Orchestra 55th Anniversary

響



©Monika Rittershaus

RICHARD STRAUSS

Eine Alpensinfonie, op. 64

SIMONE YOUNG, conductor / BEHZOD ABDURAIMOV, piano / KOTA NAGAHARA, concertmaster
PROKOFIEV: Piano Concerto No. 3 in C major, op. 26 / R. STRAUSS: Eine Alpensinfonie, op. 64
SUBSCRIPTION CONCERT, No. 569 / Sat. 24th Jun. 2017 18:00 / Tokyo Metropolitan Theatre



©B Ealovega DECCA

シモーネ・ヤング 指揮
ベフゾド・アブドウライモフ ピアノ
長原幸太 コンサートマスター

プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 作品26
R.シュトラウス:アルプス交響曲 作品64

嵐だって恐くない! 夜明けから日没まで
アルプスの大自然を抱きしめて
ヤングが振る大作《アルプス交響曲》

驚異のテクニックと強烈な打鍵で魅了する
新星アブドウライモフが共演!
《熱狂のプロコフィエフ》

読売日本交響楽団 第569回 定期演奏会

2017.6.24(土)18:00 東京芸術劇場コンサートホール

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C **SOLD OUT**

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) 協力:アフラック 事業提携:東京芸術劇場

新時代を予言したR.シュトラウスの野心作「アルプス交響曲」 ードイツ・ロマン派を得意とするヤングが指揮—

20世紀前半に活躍した作曲家の中で、リヒャルト・シュトラウスとセルゲイ・プロコフィエフほど、音楽上の出発点において対照的だった作曲家はない。ドイツ・ロマン派の正統な後継者であり、保守的なスタイルに華麗で芳醇な響きを散りばめ、聴き手を魅了したシュトラウス。かたや、斬新なリズムと不協和音の多用で19世紀的音楽秩序の破壊を目論んだ、アヴァンギャルド(前衛)の申し子、プロコフィエフ。

ところが、クラシックとモダンの交錯から新しい音楽が出現した1910～20年代、二人は軌を一にして、古典への回帰を経て、それまでとは正反対の方向を模索し始める。

シュトラウスの「アルプス交響曲」(1915)は表向き、豪勢なサウンドによって登頂者の1日を丹念に描く、素朴な自然主義の音楽だ。しかしその奥底には、峻厳な大自然に触れることで自己の精神を解放し、新たな創造による救済を目指すというニーチェ的な革新思想が流れている。

雄大な氷河や突然の嵐の描写に秘められたラジカルな意図をあぶり出すには、ドイツ・ロマン派の歴史に精通し、確固たる解釈を示す力が求められる。オーストラリア生まれの女性指揮者シモーネ・ヤングは、ドイツを中心に広くヨーロッパで活躍する実力派で、ワーグナー、ブルックナー、ブラームス、マーラーを得意とし、シュトラウスにも一家言持つ。となれば、ドイツ・ロマン派の終端に位置しながら、来たる大転換の時代を予言した野心作を、優れたパースペクティブをもって聴かせてくれることだろう。

プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番(1921)は、メカニカルなリズム反復や非西洋的な旋法の使用など、多様な音要素が混交するモダニズムの見本のような曲だ。でも、不意に郷愁を帯びたメロディーが現れて、前時代への懐古的な感傷を物語る。

ウズベキスタン生まれでアメリカに渡って研鑽を積んだ若手ピアニスト、ベフゾド・アブドゥライモフは、東洋と西洋の狭間に身を置くクラシック演奏家と言える。プロコフィエフのモダンな響きの中に時おり顔をのぞかせるアジア的なペーソスとノスタルジーを、どんな風に表現してくれるのか興味は尽きない。



ピアノ: ベフゾド・アブドゥライモフ
Piano: BEHZOD ABDURAIMOV

驚異のテクニックで世界の聴衆を魅了する大器。1990年ウズベキスタンのタシュケント生まれ。2009年ロンドン国際コンクールでは、プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番の白熱した演奏で優勝。会場は熱狂に包まれ、一躍注目を浴びた。大手CDレーベルのイギリス・デッカと専属契約を結び、12年のデビュー・アルバムが大きな話題を呼んだ。これまでに、ゲルギエフ、アシュケナージ、ホーネック、デュトワらの指揮で、ミュンヘン・フィル、ボストン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ロサンゼルス・フィル、チェコ・フィルなどと共演。今年2月ハンブルクのエルバ・フィルハーモニーのオープニングに招かれ、ラフマニノフ「パガニーニの主題による狂詩曲」で喝采を浴びた。

©Cristian Fatu

© Reinhard Fabricius

読売日本交響楽団 第569回 定期演奏会

2017年6月24日(土)18時開演

東京芸術劇場コンサートホール

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C **SOLD OUT**

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

•JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分(* 駅地下通路2b出口と直結しています)

託児サービス 東京芸術劇場には一時託児施設があります(公演1週間前までに予約)。長谷川キャリアサポート株式会社 わらべうたBS課 0120-415-306(予約受付: 平日9時~17時) ☎ 学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証・25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

読響ホームページ <http://yomikyo.or.jp/>